

八戸水高実習船が漁獲

冷凍マグロ 300人味わう

八戸学院大（水野眞佐夫学長）は8日、八戸グランドホテルで、青森県立八戸水産高（藤澤重信校長）の実習船「青森丸」（660ト）が今秋、米国ハワイ沖で実施したマグロはえ縄漁業実習の報告会を開いた。航海実習に打ち込む生徒を支援する狙いで、大側は「将来の水産業界を担う若者を応援することで、ハマの活性化に貢献できれば」としている。

（工藤文二）

報告会は八戸学院地域研 船内で急速冷凍した「青森丸」が手掛ける「応 丸マグロ」は刺し身、にぎ、援プロジェクトの一環で、りずし、カルパッチョ、ス昼と夜の計2回に約300 テーキの4品に調理され、人が出席。生徒が漁獲し、生徒ら出席者が味わいなが



八戸水産高の実習船「青森丸」がハワイ沖で漁獲したマグロの料理を味わう生徒や父母ら＝8日、八戸グランドホテル

八学大企画 「水産業界の担い手応援」

ら地元の水産振興に思いをはせた。

昼の部では75日間の航海に従事した荒道峻さん（17）と伊藤しいなさん（17）、小泉爽翼さん（17）いずれも水産工学科2年Ⅱが、活動の様子を発表。3人は「食事の準備など普段は親にしていることを自分たちが行い、親への感謝の気持ちが強くなった」「この経験を、進路や就職を考えるときに生かしたい」と述べた。

青森丸は9月5日に八戸港を出航。ハワイ北方海域で計35回操業し約31トを漁獲、神奈川県三浦市の三崎港に水揚げし、11月18日に帰港した。同大は仲買業者を通じてマグロの一部を購入、報告会に提供した。

八戸港にはマグロ用の冷凍設備がないなど受け入れ態勢が不十分で、八戸水産高による同港への水揚げはほとんどないが現状だ。

同センターは今後、冷凍マグロをPRするなどし、同校を支援する方針。担当者は「何らかの形で八戸水産高を応援していきたい」と話した。